

公益社団法人福島青年会議所 2015年度事業報告

理事長 阿部 友弘

不易流行

1963年、私たちの故郷であるこの福島の地に志を同じくする諸先輩方が「集え、若き獅子たちよ」のスローガンの下、社団法人福島青年会議所を設立されました。それから今に至る間、時代毎の経済情勢や社会環境に応じた明るい豊かな社会の実現に向け、歩みを止めることなく活動を続けてきております。諸先輩方より受け継いだ英知と勇氣と情熱の灯



をさらに発展昇華させ次の世代に繋ぐべく「不易流行」を念頭にJAYCEEとして時代の求める姿に対応しなくてはならない部分、そして決して変えてはいけない部分をしっかりと次代へ繋ぎながら地域社会から求められる団体となるようひと

づくり・まちづくり事業に邁進してまいりました。節目である50周年を経て、また公益社団法人として認可され、各事業も時代に合った時代の求めるものを展開できたと自負しております。

公益社団法人として

2013年5月に福島青年会議所は公益社団法人として登記されました。これにより法的にも我々の運動は「公益である」と認められるに至りました。これはゴールではなく新しいスタートだと考え、維持・継続に向けた会員の資質向上を行い、その結果として地域社会からより一層信頼され、求められる団体となるよう、そして市民から愛され必要とされる団体として存続できるよう努めてまいりました。結果として、市民のみなさまを巻き込んだ事業を多く開

催することができ、当青年会議所への信頼と付託、なにより期待の大きさを感じることが出来る一年でした。適切な会計処理や法令順守など、専務理事や財政局のメンバーにも大きな役割を果たしていただき円滑なLOM運営を実現できたと実感しております。



未来を担う子どもたちへ

東日本大震災から4年以上が経過しました。その中でも特に大きな壁を越えなくてはならない福島の子どもたち。その福島の子どもが地元で生活をして地元を誇りを持つためにスポーツを通して夢を育む事業を展開しました。その中でも福島に本拠地を置くプロスポーツ団体の協力を仰ぎながら未来の福島に夢を持てるような内容だったと思います。また、本年もわんぱく相撲を開催することができ、福島からは全国大会に2名の出場を果たすことができました。両国国技館での全国大会ではそのスケールに瞳を輝かせる子どもたちに応援する我々親世代も熱中し、学校や塾などでは味わえない体験ができたので





はないかと思います。そんな貴重な経験ができる、この歴史ある本事業を今後も継承し続けていければと重ねて実感いたします。

愛する故郷のために

愛すべき故郷福島。そのシンボルである信夫山を市外に、県外に、そして世界に発信することができた一年だったと思います。2月の暁参りに合わせて実施した福男福女競走や桜の時期に信夫山の名所を回りながら楽しむことのできるパークランニングレース。どちらもアンケートや参加申込を見ると市外や県外の方の参加が目につくようになってきました。参加者が福島の魅力を存分に堪能して、その良さを各々の地域で伝播させることでまた福島のファンが増えるという嬉しいスパイラルが構築されつつあります。この素晴らしい事業を今後もまちづくりの柱として実施していくよう心から祈るばかりです。また市民を巻き込む事業として、福島の未来構想に基づき市長対談を実施させていただきました。昨年のアンケートと一昨年の提言書を基にした対談で、今後は行政と我々のリアルなコミュニケーションがさらに必要だと痛感させられました。地域のオピニオンリーダーとしても我々が担う役割の大きさを実感した事業でもありました。

会員拡大

本年は13名の新入会員を仲間に加えることができました。人口減少や社会情勢の激変に伴う中での会員拡大は容易ではありません。しかし、地域にとって我々の運動は何物にも代えがたいのもであり決して絶やしてはならないものであります。そのためにも次年度以降もこの会員拡大については様々なアイデアと情報集約を用いて最善を尽くすことが何より重要であります。本年はノンフィクション作家の山

根一眞氏を例会講師に迎え新入会員候補者に例会見学をしていただいたり、市民への公開講演会としてゴルゴ松本氏に「命の授業」の講演をしてもらったりと、青年会議所の認知度向上や会員拡大へ繋がる運動の発信に力を入れてきました。継続的發展を遂げるためにも皆様からの情報提供や紹介などもしやすい環境整備に次年度以降も努めていきたいと考えます。

東北の夢

2013年の小畑会頭輩出、2014年のASPAC山形大会開催、そして2015年に開催された全国大会東北八戸大会が新東北3つの夢として掲げられ集大成を迎えました。また本年は同じ県北エリアの二本松JCが浪江JCと共催で東北青年フォーラムを主管しました。どちらの大会も福島の復興、そして東北の復興を全国のメンバーに発信し、東北がそして福島がひとつになることができた大会だったと思います。この3つの夢を通して、いつか私たち福島青年会議所でも日本本会への役員輩出や前述の大会を誘致する機運が高まり地域の魅力を最大限発信できる場を創造できればいいなとしみじみ感じることができました。



ラストメッセージ

非日常の世界が日常である世界に身を置いて約9年の時間が経ちました。新入会員セミナーに参加する際、家を出ていく私を見ながら満足に話もできず泣いていた娘も今年11歳となり親として著しい成長を実感しております。当時のことを自分の中ではほんの少しだけ昔と置いておりましたが、世の中の動きはほんの少しだけではないようです。JC入会当初、9年後の社会で人口の約半分がスマホを持ち歩き街中の至る所で地図を見たり飲食店の情報を得たりゲームをしたりしているなどと想像できたでしょうか。テレビ放送が始まった50年前の人たちも50年後に薄型の高性能テレビでクリアな映像を見るだ



けではなく双方向でのコミュニケーションが可能になっているなど想像できるでしょうか。同じように、今から5年後や10年後などはそれらと比べようもないほど時代の流れは速くなると思います。それはその時その時で過去の常識が通用しなくなるということなのだと思います。遅かれ早かれ国境なんてものは、いつかは形骸化し価値観のグローバル化は驚くほどのスピードで進行します。その時、それま

での常識を捨てる勇気を持つことができるかどうかだと考えます。次の世代のためにも、私たちの故郷・福島が世界から取り残されることなく発展を遂げるためにも、会員同士が時代の変化に対応しながら切磋琢磨をして自己を高め、そのことが地域社会のためになると私は信じています。妥協することなく行動してほしいと思います。

最後に、福島青年会議所 第52代理事長という身に余る重責を多くの方に支え励まされながら全うすることができました。福島JCメンバーのみなさま、OB会員のみなさま、関係団体のみなさま、地域のみなさま、同志であります各地JCメンバーのみなさま、本当にありがとうございました。全ての皆様に深く感謝申し上げますと共に、2016年度は53年目の新たな歴史を刻みます。今後とも福島JCを何卒よろしくお願いいたします。一年間大変お世話になりました。



事業報告

ひとづくり委員会

委員長 諸橋賢太郎

本年度、ひとづくり委員会では「スポーツ」をテーマに一年間活動してまいりました。第28回わんぱく相撲LOM大会では、新たな試みとして大会前に相撲道についての講演会を実施しました。相撲の礼儀作法や心得を知った上での大会実施となり、子ども達にとってより良い事業となりました。そして、本年度は、わんぱく相撲のブロック大会も福島青年会議所が主催となり盛大に開催することが出来ました。

また、「わらしっ子塾」では、「スポーツの力で夢に近づこう」をテーマに、サッカー、野球、バスケの3事業を行い、子ども達に夢を叶えた地元のスポーツ選手や、著名な元プロ野球選手と近くで接して頂

くことで、将来の夢について深く考える「きっかけ」を与える事業を開催することが出来ました。

1年間に5つ事業を行えたということは、大変なご尽力を頂いた委員会メンバーや、協力して頂いた皆様のおかげです。1年間、誠にありがとうございました



事業報告

まちづくり委員会

委員長 黒澤 俊之

本年度、まちづくり委員会では「故郷への想いと感謝を胸に、明るい豊かな福島を築き上げよう」をスローガンに一年間活動してまいりました。5月には第3回目となる「信夫山パークランニングレース」を開催致しました。福島のシンボルである信夫山を567名もの参加者が爽やかに駆け抜けました。レース後には、桜の名所に新たに桜の苗木11本の植樹を行い、福島の魅力を大いに発信することが出来ました。

また、「福島の未来に必要なものとは～共に新たな一歩を踏み出そう～」では、阿部理事長と小林香福島市長のお二方で、二年前に我々福島青年会議所が提言したふくしま未来構想についてトップ対談を実施していただき、現地点での双方の考えや福島市

の今後の歩む道を周知することが出来ました。

事業のみならず、JC活動・JC運動ともに先輩方からの想いを継承し、そして進化させられたのも、自ら考え行動してくれる素晴らしい委員会メンバーに恵まれたこと、また様々な場面で協力を惜みず委員会を支えて下さった全ての皆さまのおかげであると、心から感謝しております。1年間、誠にありがとうございました。



事業報告

まつり委員会

委員長 情野 裕仁

まつり委員会では2015年度委員会スローガンとして「絆をもって誇りのある行動を！」を掲げ委員会活動をスタートさせました。

2月には「暁まいり 第三回福男福女競走」を開催し、初めての夜間開催において参加者や見学者、お手伝い頂いた方々、そして福島JCIのメンバー、みんなで極寒の中でも信夫山に熱気をもたらし、地域の伝統行事「暁参り」に市民の関心を高める事に成功しました。さらに、5月には「東北六魂祭 in 秋田」、7月には「イタリア ミラノ万博」に地域の伝統祭事であり「福島わらじまつり」を引っさげ参加してまいりました。大わらじを担いで勇壮に練り歩き、県外、海外に「福島」の元気を最大限発信してまいりました。そして、7月31日、8月1日に行われた「福島わらじまつり」の本祭開催です。2015年度まつり委員会の集大成とも言える本事業は「わらじづくり教室」、「わらじ競走」と祭の象徴である「わらじ」に特化し、事業を通して「福島わらじまつり」の楽

しさを、「福島」の素晴らしさを存分に県内外の市民へPRできたと思っております。

正直申し上げて、大変でした。年度初めに掲げた上記のスローガンなどは今の時期には忘れていました。目的、意義なども忘れてただがむしやらに取り組んでまいりました。ただ終わりに近づきそこには、「感謝」という気持ちは明確に残っております。

まつり委員会に携わって頂いた皆様に感謝申し上げます。当委員会の事業報告とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

そして「やったれ！」



事業報告

会員拡大委員会

委員長 岸 秀樹

会員拡大委員会は～楽しくないや仲間の輪は広がらない～をキーワードとして、多様な会員の増強を図ってまいりました。前年大成功をおさめた一斉拡大運動を継承しつつ新たな活動として会員拡大目的の対外向け及び対内向けセミナーを開催し、全員参加型の活動を目指してきました。講師講演会では、皆様のご協力のもと多くの見学者にご参加いただき、拡大の新たな手法が発見できました。有難う御座いました。

また、とうろう流し花火大会ではJCメンバー枠を超えて発興会、警察、市、県、国、消防署、消防団など多くの皆様に助けられ事故・ケガなく運営できました。花火打上の時間だけ、雨が止むといった奇

跡も体験でき忘れられない事業となりました。

会員拡大はすべての基本であって、永続的に取り組む課題です。今後とも皆様のご協力をいただきながら、さらに意識を高め取り組んで参ります。1年間有難う御座いました。



事業報告

総務委員会

委員長 松田 覚

総務委員会は「堅実な運営に新たな試みを加えて、更なる高見を目指す！」をスローガンに一年間活動してまいりました。行った活動としては毎月の例会の設営、そしてなかでも10月例会前に「公開講演会 ゴルゴ松本 命の授業」を開催した事です。この事業を開催するに当たり、多くの壁がありました。しかし委員会メンバーに助かれなんとか事業を終える事が出来ました。また、会員向けWEB版摺の発信を行い、そして、理事会の議事録の作成を行い、その他にもさまざまな総務に関わる部分を担いました。

2015年が始まる準備段階から、12月例会・卒業式

まで本当に息つく暇も無い、ととても盛り沢山の一年を過ごした今年一番の嵐を巻き起す委員会だったと思います。しかしながら多くの方々に支えて頂き、また委員会メンバーに力を発揮してもらった事で一年間を乗り切る事が出来た事を、心より御礼申し上げます。一年間誠にありがとうございました。



事業報告

事務局

事務局長 瀬戸 秀典

事務局は、明るい豊かな社会実現のため日々活動しているメンバーのサポートを中心に活動してきました。

三役会、理事会のサポートはもちろん、各種事業のサポート、他LOMとの連携事業参画、京都会議、サマーコンファレンス、全国会員大会東北八戸大会、福島ブロック協議会新春のつどい、福島ブロック協議会会員大会、東北青年フォーラム二本松浪江大会

の参加など活動は多岐に亘ります。

本年は特に二本松市で開催され副主幹でもあった、東北青年フォーラム二本松浪江大会では、東北各地の同志に福島のソーシャルストックである「わらじ祭り」を「わらじ競争」を紹介することができました。実はその時の担ぎ手は福島青年会議所メンバーでも初めてわらじを担ぐメンバーが多く楽しい思い出となりました。

最後に、我々事務局メンバーは理事長のおもいである「アガペー 無償の愛」で一生懸命活動し、充実感に満ち溢れた1年でした。ありがとうございました。

事業報告

財政局

財政局長 菅野 雅公

2016年度の財政局の局長をさせていただきました菅野です。本当に右も左もわからない私でしたが、皆様に支えられてなんとか1年間やってこれました。委員長・副委員長には、私の至らぬ点が多々ありご迷惑をおかけしてばっかりの1年間だったように思います。申し訳御座いませんでした。渋谷次長・深瀬専務・加藤監事・佐藤監事・中尾監事には助けられてばかりで、頭があがりません。事業報告

といひましても、基本的に各委員会の事業計画書をより良い物にするべく精査や助言をしていくというのが今年度の財政局の担いです。阿部理事長から、事業計画書のことは全て財政局に任せるとのお言葉をいただいたので、しっかりと担いを全うしようとした結果、財政審査会議がいつも終わるのが遅くなってしまい、参加していた皆様には大変な思いをさせてしまったと感じております。事業計画書はもう全て終わり、後は事業報告のみです。ここで心を緩ませず、しっかりと最後まで今年の担いを全うし次年度に引き継いでいきたいと思ひます。1年間ありがとうございました。

